



No.2 実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着

- 活動期間 令和4年度
- 対象者名 松山町酒米研究会（吟のいろは栽培者 14人）
- 課題の背景
 - ・「吟のいろは」は大粒で心白発現、収量性が良い特徴を持つ酒造好適米であり、農家収益の向上が期待できる。県内24蔵元中22蔵元が原料として使用し、柔らかくふくよかな味の酒ができる実需の期待も大きい。
 - ・松山町酒米研究会は、令和2年産で6.7ha（8名）、3年産は8.0ha（10名）、4年産は約10ha（14名）と作付拡大し、品質向上に向けた技術研鑽を凶っている。普及センターは、令和3年度まで2カ年、研究会と協働で肥培管理技術確立に向けた展示ほ4ヶ所を設置し、千粒重と心白発現率は満足な成果を得た。一方、籾数過剰や青未熟発生などに起因する落等があり、生産者からは「より細やかな施肥管理」へのニーズが、実需からは「原料米の品質の均一化」への期待がそれぞれ高まっている。
 - ・コロナ禍で日本酒全体の消費が縮小する中、4年産「吟のいろは」の需要は拡大している。実需に対する「吟のいろは」の理解促進と需要拡大を進めていくことが必要である。

令和4年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栽培管理技術確立支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 過去2カ年の展示ほ調査結果を基に栽培マニュアルを作成提示。ほ場の土壌分析結果に基づく施肥指導。 ■ 育苗期には、栽培者全員の苗巡回指導実施。 ■ 移植後は研究会員と協働で展示ほ4ヶ所の生育調査を実施し、結果をフィードバック。追肥判断のため、栽培者全員のほ場の幼穂長を測定し、過去データも踏まえて追肥判断し、情報提供した。 ■ 目標生育量は概ね確保でき、順調に生育中。引き続き、収穫～出荷までの支援を行い、品質向上を目指す。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関係機関と連携した交流、PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 4月から適宜、【酒造好適米「吟のいろは」通信】を発行し、県酒造組合や生産者等関係者に情報を発信している。 ※通信は、普及センターHPから閲覧可。 ■ 6月末と7月末に各1回、県みやぎ米推進課が「吟のいろは」の県内生産者を対象として、酒米研究会の生育調査ほ場で栽培研修会を開催した。普及センターからは生育情報を提供し、蔵元に供給される「吟のいろは」全体の生産向上を支援している。 

意図する対象の変化（最終年度）

- 「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。
- 蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。

数値目標：㎡あたり籾数27千粒（±5%）

達成生産者数 R3年 4名 → R4年 10名